

みんなで甲陽の校歌を歌おう

同窓会会長 平田 豊 (22 回)

6 月はワールドカップの月であった。1 ヶ月間、日本中がサッカーの話題で湧きかえった。戦いすんで振り返ってみて、この大イベントは日本人達に色々大事なものを残してくれたように思う。

海外のジャーナリストの目から見ると、「日本のサポーターは優しすぎた」部分もあったようだ。「勝者をたたえ敗者にも暖かい拍手を送る態度は美德だが、それだけでは世界の頂点を極めることは難しいのではないか」といった辛口の批評もあった。決勝トーナメントに進出しながら初戦で敗れた自国のチームに、「夢を有難う」と惜しめない拍手を送る日本人の優しさ、厳しくいえば淡白さに驚きを感じずる人もいたようだ。

ともあれ、私は大会の期間中、長居の球技場に足を運んで日本とチュニジアの試合を観戦する幸運に恵まれた。日本チームが決勝トーナメントに進出するかどうかの大事な試合で、球技場は興奮の坩堝であった。

そして、その興奮のなかで、若いサポーター達が国歌君が代を合唱する姿が私を驚かせた。その場の雰囲気とはいいながら、若い世代が何のためらいもなく君が代を歌う事実に感銘を覚えたのである。

ワールドカップの最大の成功は、日本人の心に世界の中のニッポンという意識を甦らせたことではないかと私は思う。たかがお祭りではないかという見方もあるが、世界には多くの国があるということ、多くの民族がいて暮らし方も物の考え方も様々であること、そして日本人であることの誇りを再認識できたという事実を大切にし

たいのである。

さて、ワールドカップのあとは甲陽の同窓会である。8 月 31 日の会員総会には是非万障を繰り合わせて甲子園に集合したいものである。ワールドカップでは、若い日本の代表達が体力の限界に挑戦してプレーをした。その姿が我々に感動を与えてくれたのだが、本人達にも持てる能力の全てを燃焼させた満足感があったと思う。

我々にもかつてそんな時代があった。甲陽で学んだ 5 年或いは 6 年間の時代である。学問であれスポーツであれ、目標達成の為にひたむきな努力をした瞬間があった筈である。スケールの大きさからいってワールドカップと比ぶべくもないが、心の中に占める重さからいえば決して遜色のない思い出がある筈である。

年に 1 回、我々は一堂に会してその思い出に浸ってみたい。甲陽の校歌を歌いながら純粋であったあの時代に帰ってみたいのである。

各年次毎に誘い合わせて多数参加し、同窓会総会を盛り上げて頂くようお願いする次第である。



発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 平田 豊
印刷所
株式会社 小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL (0798) 33-0691
同窓会事務局専用
TEL 0798-71-4888
(月・水・木 10:00~16:00)
FAX 0798-71-4890
甲陽ホームページ
<http://www.kabto-yama.ac.jp/koyo/>

平田会長再選

4 月 4 日に開かれた役員総会にて、平成 14・15 年度の会長の選出が行われ、22 回の平田豊氏が再選されました。又、監事 3 名が選出されました。その後、会長より各役員の委嘱が行われ、又、各委員会では委員長の互選が行われましたので、右にその結果を掲載いたします。

役 職	氏 名	回 生
名誉会長	高垣雄二郎	15
会 長	平田 豊	22
副 会 長	有田 和男	31
	横内 昭	34
	守殿 貞夫	41
	西村 貞一	45
	今西 昭	57
相 談 役	宗田 久雄	高商1
	西松 龍一	1
	山野井 萬	4
	建内 保興	12
	中島 久	22

*役員の際は会則第 10 条による。

役 職	氏 名	回 生
顧 問	内海 完治	33
	尾山 啓二	35
	田村 眞也	36
専務理事	大川 貴史	55
常務理事	光野 昭	27
	中村 貞三	35
	鶴田 和成	38
	田村 坦之	39
	永井 隆	44
	西村 公男	46
	池田 収一	48
	辰野 久雄	51
	佐藤 秀明	53
	箱田 光信	57

役 職	氏 名	回 生
監 事	堀 建二	17
	長村 卓	21
	川端喜佐男	22

会報編集委員会		
委員 長	今西 昭	57
会員総会運営委員会		
委員 長	中村 貞三	35
会務運営委員会		
委員 長	横内 昭	34
会員名簿編纂委員会		
委員 長	有田 和男	31

委員会については会則第 28 条による。

今すぐご予約を！

創立 85 周年記念 会 員 総 会

8 月 31 日(土) 13 時 ~ 16 時 於：甲子園都ホテル

——— 詳細は P.2 ~ P.3 に ———

甲陽健児 全員集合!

創立85周年記念会員総会

8月31日(土) 13時~16時

於・甲子園都ホテル

我らが母校・甲陽学院は、1917年、枝川河畔、群生する松の緑に恵まれたこの甲子園の地に産声をあげ、爾来85年、我々同窓生も1万6千名を越えるまでになりました。その後、校舎こそ角石町に移転しましたが、現在中学校のある香炉園の地にあった高商・工専の卒業生の皆様とともに、甲陽の自由の校風を胸一杯に吸い込み、青春時代を謳歌した同胞の土が、一堂に会する年一度の日がやって参りました。甲陽の設立趣旨に「百年の計は人を植うるにあり」とありますが、百周年さらには二百周年へと母校のますますの発展を祈念しつつ、時を超えて通じ合える思いを語り合おうではありませんか。

恒例の同窓会総会を次のような要領で開催いたします。友人、知人お誘い合わせの上、どうぞ奮ってご参加ください。もちろん、ご家族の方々も大歓迎です。

<第一部> 85周年記念音楽会

85周年を記念して、声楽鑑賞の一時を設けました。ご出演は、関西二期会でご活躍の、22回生故芦原健氏ご長女 **芦原昌子さん**、本校59回生で、(株)大林組にご勤務の傍ら、関西二期会でご活躍の**竹田昌弘氏**をソリストに迎え、またピアノ伴奏として関西二期会の**鎌田史子さん**をお願いいたしました。軽やかなピアノの音にのせたお二人の美声に、しばし癒しの時をお過ごしください。

<第二部> 懇親会

1. 恩師と語ろう

お世話になった恩師に是非のご出席をお願いしております。語り合い、懐かしい思い出を振り返りたいと考えております。

2. ホームカミングデー(33回生と58回生)

卒業後25年、50年の方々を対象に“ホームカミングデー”を設けました。今年は33回生と58回生が該当します。これは、多忙でお集まりになる機会の少ない皆様に、何らかの形でご集会になる場を提供したい、我々も同じ甲陽の仲間としてこの節目をお祝いしたいとの思いから企画いたしました。この回の理事・評議員の方に、別途ご連絡をいたしますので、同期の方々への呼び掛けをお願いいたします。ご参加いただいた対象学年の皆様には記念品を用意しております。

3. ミニ同期会には名札を立てたテーブルを提供

10人以上お集まりのグループ(学年同期会、クラブ、同好会等)には、“名札つきのテーブル”をご用意いたします。この企画は、会員総会を一次会的な意味でご活用いただければとの思いや、各学年、あるいはクラブの方がお集まりになりやすいようにという願いからの企画であります。

なお、名札・テーブルの用意がありますので、必ず前々日(2日前)までに事務局まで幹事のご氏名と確定ご人数をお知らせください。参加人数最高のグループには記念品を用意しております。

4. 甲陽クイズと甲陽歌の合唱

今年も甲陽クイズを用意しております。全問正解の方々には、賞品を謹呈いたします。

また、終宴を飾る、あの懐かしい甲陽の歌の数々を全員が一つの輪になってお互いの肩を抱きあい、青春の思いを力強く合唱し合いたいと願っております。

5. 懇親パーティー

パーティーには、甲子園都ホテルの美味な料理と、ご寄贈を賜りました「白鹿」・「白鷹」の日本酒や、サントリーのビールとウイスキーも、十分に用意いたしました。皆様のご参加をお待ちしております。

information

日 時	平成14年8月31日(土)	申込み方法	同封の振替用紙で、8月22日(木)までに会費をお振込みください。この場合は特別割引として、一般会員は3,500円、学生会員・同伴家族は1,500円とさせていただきます。
	第一部 13時~14時20分		会費無料の方はハガキ、電話、FAX等で出席のご連絡を同窓会事務局までお寄せください。
	第二部 14時30分~16時	問 合 せ 先	甲陽学院同窓会事務局 〒662-0096 西宮市角石町3-138
会 場	甲子園都ホテル (TEL 0798-48-1111)		TEL 0798-71-4888 (月・水・木・金) 10時~16時
会 費	一般会員 4,000円(当日会費)		FAX 0798-71-4890
	学生会員 2,000円(当日会費)		E-mail fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp
	同伴家族 2,000円(当日会費)		中学校、高等学校への問合せはご遠慮ください。
	新卒者(平成14年3月卒) 無料		
	1回生から28回生 無料		
	同伴子供・特別会員 無料		

第一部・85周年記念音楽会 PROGRAM

ピアノ伴奏・鎌田史子さん(関西二期会)

日本歌曲	芦原昌子さん	竹田昌弘氏
ドイツ歌曲	夏の思い出	この道
イタリア歌曲	ます	歌のつばさに
オペラアリア	マッティナータ	オーソレミヨ
デュエット	ある晴れた日に	女心の歌
デュエット		乾杯の歌
		メリー・ウィドウ

演奏順不同。また、都合により曲目が変更されることもあります。

ご出演の皆様のプロフィール

芦原昌子さん(ソプラノ)



関西電力の芦原名誉会長のご子息で、本校22回生の故芦原健氏のご長女。神戸女学院大学音楽学部声楽科卒業。同研究科修了。第11回日伊コンクールソ金賞受賞。95年度坂井時忠音楽賞受賞。96年度尼崎市民芸術奨励賞受賞。

オペラは関西二期会公演「るつぽ」の主役アビゲイルをはじめ、以後「こうもり」アデーレ役、「魔弾の射手」エンヒェン役、「フィガロの結婚」スザンナ役、「ラ・ボエーム」ミミ役、ムゼッタ役、「カルメン」ミカエラ役、フラスキータ役、「おなつ・せいじゅうろう」おなつ役等に出演。

特に85年、95年の「メリー・ウィドウ」のタイトルロールのハンナ役は高い評価を受けている。第九のソリストをはじめ、コンサート活動も盛ん。過去に2回リサイタルを開催。

98年には初のCD「オペラの時間^{とき}」をリリース。

関西二期会会員、神戸音楽家協会会員。日本演奏連盟会員。尼崎芸術文化協会会員。

竹田昌弘氏(テノール)

甲陽学院高等学校第59回卒業。京都大学工学部大学院修了。97年第10回和歌山音楽コンクール第1位、並びに市長賞受賞。第7回日本クラシック音楽コンクール審査員特別賞受賞。98年第34回日伊声楽コンクールソ入選。

96年、滋賀県芸術祭におけるモーツァルトのオペラ「魔笛」タミーノ役でオペラデビュー、関西二期会公演では、98年R. シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」バッカス役、99年プッチーニ「蝶々夫人」ピンカートン役と、立て続けに出演。2000年10月には、関西初演となるワーグナー「パルジファル」のタイトルロールに抜擢され、各方面から絶賛された。さらに昨年11月には、ドニゼッティ「ルチア」エドガルド役で出演。またソロ活動では、大阪フィルや関西フィル、京都市交響楽団の「第九」や、マーラー「大地の歌」、ショスタコービッチ「森の歌」、また宗教曲のソリストとして活動する他、東京でガラコンサートに出演するなど活動の場を広げている。さらに今秋には、ベートーヴェン「フィデリオ」フロレスタン役が決定している。現在、関西二期会会員、日伊音楽協会会員。



学校
だより

甲陽学院同窓生講演会

昨年度より同窓会予算に母校後援費が計上されたことを契機として、母校においては在校生を対象とした同窓生による講演会が催されました。ここにその概要をご報告いたします。

将来大学で学ぶ人に

東京大学大学院理学系研究科教授
深田 吉孝(55回生)

2001年11月17日(土)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において、東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻・教授深田吉孝氏(55回生)の講演会が開催されました。深田氏からは、将来大学で学ぶための心構え、21世紀の学問のあり方、東京大学や京都大学の学風、などについてお話をいただきました。以下に、その講演要旨を記します。



大学は今どうなっているのか、ということから始めます。日本では大学改革によって大学院重点化が行われてきました。今までは学部の先生が大学院も教える、という形でしたが、大学の教官は大学院に所属して、学部も教える、という形になってきました。研究の主体は大学院、教育の主体は学部、ということになってきたのです。その背景には、大学に入るまでに高等教育を受けるための準備が十分なされていないという現状があります。学部は、大学院と高校とを結ぶ重要なプロセスだと私たちは認識していますが、研究を進めていく上で大学がゴールであるという時代は既に終わっています。大学を出て大学院に進学する際に、もう一度進路について選択するチャンスがあるのだと考えて下さい。

次に今後の変化ですが、国立大学が独立法人化されることによって、大学・大学院はその特色を明確にすることが求められます。また文部科学省によるトップ30構想をはじめ、外部からの評価にもさらされるようになります。その結果、受験生も、従来の入試偏差値による「ブランド大学志向」とは異なった大学選択ができるようになるでしょう。

さて、今日の本題の「何を考えて大学に進んでいけばよいのか」という話に入ります。結論は、(1)考えること、(2)発信すること、(3)リーダーシップをもつこと、です。

甲陽生はたいへん高い能力をもっていますが、それが大学の中で十分に表れてこないことも多いようです。その原因の一つは、「考えること」ができていないという点です。今までのトレーニングでは、みんなは決まった材料をハイペースでこなすことだけを鍛えられてきたようです。ところが大学では、自分は何をしたいのか、を

自分で考えなければなりません。思考という人間に備わった高次の脳機能を十分に活用させなければ、大学で学ぶ意味はないものと心得て下さい。また、日本人は、他人の真似をしたがる平均志向がありますが、これもダメです。自分の特性を把握して、他人と違うことをすることが大事です。

第2は、考えたことを発信することです。自分の考えを人に伝えられない人が多いのです。「沈黙は金」ではなく「沈黙は無知」とされます。もちろん発信には技術が必要です。その技術として英語が重要なのは当然ですが、それ以前に日本語が稚拙すぎる人が多いです。大学に入ったら、まず言葉で自分の考えを表現するトレーニングを十分にして下さい。

大学で要求される第3は、強いリーダーシップです。高い能力を持ったみなさんは「追従型」ではなく、リーダーシップを発揮できる人間を目指して下さい。今の大学生は、個人主義が強すぎて集団で活動できないようです。それではリーダーシップは養えません。クラブ活動なども利用して、集団の中で自分を鍛え、リーダーシップを養成することを勧めます。

次に、21世紀の学問ということでお話しますと、「情報」が第1のキーワードです。私たちの世界では、ヒトゲノムは既に解読されましたし、全ゲノムが読まれている生物もいっぱいあります。ここで必要なのはこうした膨大な遺伝子情報をさばく能力です。もう一つは、「脳と心」の解明です。最後に、「細分化」です。これからの学問はどんどんと分野が細かくなって、非常に特化したある分野の第一人者を目指すことになりますから、そのためには、他人には分からない自分の適性を読み取ることが大切となってきます。

最後に京都大学や東京大学、札幌医科大学など、自分が体験してきた大学について、主観的ながら感想を述べます。まず医学部というところは、国家試験を目指して知識と技術と習得することを最優先としており、バラエティーが少なく、オリジナリティーが出しにくいかな、という印象です。東大の教養学部は、文科系・理科系の枠にとらわれないオールラウンドのプレーヤーの適性のある人にはいい環境だと思います。理学部については、大学によって大きく違います。東大の場合は、進学振り分けがシビアで、それが教養学部時代の生活を規制します。それに対して京大の理学部はユニークで、学生は4年間まるで勝手に生きていく、教官は研究熱心で教育には不熱心ですから、学生はやりたいことができます。概して、東大は平均的にノーマライズした教育に配慮していますが、京大は「ほったらかし」ですから、自由を自分のために活かせる人にとっては魅力ある環境だと思います。



講演中の深田氏



聴衆の生徒の様子

中学生に望むこと

株式会社スクウェア社長
鈴木 尚 (61 回生)

2001 年 11 月 22 日、甲陽学院中学校講堂において、株式会社スクウェア社長鈴木尚氏 (61 回生) の講演会が開催されました。未公開プロモーションビデオの上映もあり、中学生全員興味深く聴講しました。最後に行われた質問合戦では、脳の鍛え方を訊いた 2 年生の後藤健太郎君が見事優勝、鈴木氏からプレイステーション がプレゼントされました。以下に、その講演要旨を記します。



こんにちは。1980 年に高校を卒業しましたので、中学は 24 年振りということになります。中学に入学したときは丸刈りでした。いまは違うようですね。羨ましい。高校は 1 年間だけ甲子園の校舎で過ごしました。後の 2 年間は今の角石町の校舎です。両方の校舎で学んだ貴重な体験をしています。

その後、慶應大学経済学部に進学しましたが、2 年生のとき、つまり、1983 年にスクウェアを創設しました。最初は手探りで、当時は私もアルバイトだったのですが、いつのまにか社長になっていたという感じです。現在では、関連会社を合わせて 1300 人の従業員がいます。

いわゆるベンチャーを興したということになるのですが、皆さんの多くは、将来の仕事に関してまだ漠然としか考えていないのではないのでしょうか。

君たちは高校受験をすることなく、やがて大学を受けることになります。そのとき、自分の意志で人生を設計すべきだと思います。中学 1 年生、決して早くはありません。どのような人生を歩むのか常にイメージしておくべきではないのでしょうか。意識しないということは無気力に無関心に生きているということなのです。自分の人生なのだから、何よりも関心をもっていいはず。それをより具体的に意識してほしいのです。

だから、自分の学力だけで、入れそうな大学を選んではいけません。まず、どういう人間になりたいかというプランをもってください。もっといいプランが出来たときは、変えていいのですが、安易に妥協しない。妥協すると、その後の人生が妥協の連続になります。不可能でない限り、歯をくいしばって頑張る。「意志あるところに道は開ける。意志なくして道は開けない」ということはよく覚えておいて下さい。



聴衆の生徒の様子

そのような意識を持ち続けることは、大きくいうと、日本を変えることに繋がってくることになると思います。世界の人達は、日本について詳しくありません。日本人はあまり尊敬の念を抱かれています。日本人は型にはまったときには非常に大きな力を発揮します。しかし、その分、横並びをすごく意識しています。そのような社会が戦後ずっと続いて来たように思います。しかし、それは変えていかないといけないと思います。変えるのは皆さんです。



講演中の鈴木氏

私がなぜ会社を興したのか。高校時代の 1979 年にインベーダーブームがありました。これに私ものめり込みました。たかが機械なのですが、日本中の人の心を掴んだのです。これは産業になるだろうと感じました。そのことが会社を興した動機なのですが、何よりも好きだという気持ちがスクウェアという会社を大きくし、ファイナルファンタジーを産み出せたのだと思います。

更に大事なことは、困ったときに助けて下さる人脈があるということです。皆さんも人脈をつくるということ意識してほしいと思います。いま隣にいる友達は一生の友達になります。自分の弱いところを曝け出せる友人、そのときに励ましてくれる友人なんて最高じゃないですか。そのような人脈を中学、高校、大学、社会人となっていく中で一人でも多く作って下さい。

そのためには、自分もユニークな魅力ある人間になる必要があると思います。ですから、横並びは止めましょう。目を見て、はっきりと喋れる人になって下さい。

ところで、皆さんテストは好きですか。テストは限られた時間で解かなければなりません。だから、だれでも難しい問題は後回しにします。しかし、これがいいことだと思っはいいけません。当たり前だと思ってしまうと、社会に出て難問に出くわしたときに意識として既に負けてしまいます。更に、大きな問題として、問題は与えられるもの、自分で見つけるものではないと勘違いしてしまいます。自分で問題を見つけることが出来る人、こういう人こそすごい人です。見つけられる人は、たいてい自分で問題を解決できます。

難問に出くわしても逃げない人になって下さい。それを敢えてしないと、永久に、思考のマラソンは出来ません。長く考え続けられる、難問にも逃げない、そういう脳味噌を作して下さい。これは受験のテクニックとは別の次元の話です。

今、日本には難しい問題が山積しています。しかし、この命題を解ける人は必ず現れる筈です。そういう人になって下さい。そして、日本の文化を世界に伝える、世界から尊敬される人間になって下さい。

退 任 の 先 生

今春、田村眞也先生と松本純和先生のお二人の先生が退職されました。田村先生は1970年より32年間、英語を担当されました。松本先生は1995年より7年間、数学を担当されました。今回、本紙より原稿をお願いしましたところ、田村先生からご寄稿をいただきましたので、ここに掲載いたします。

定年退職に際して

田 村 眞 也



人は生きてその終焉を迎える時、いかに有意義な人生を過ごしたかを判断するのは本人ではなく、後に残された周囲の人たちではないでしょうか。少なくとも成人して社会に出て何らかの仕事をしてきた人にとって、それが短い人生であろうが、長い人生であろうが、本人は精一杯生きてきたはずで、その評価は、周囲の人たちがその人とのどのように関わってきたかによって、決まるのではないのでしょうか。人は自分一人で生活できるわけではありません。時には他人を援助することもあれば、時には助けられることもあるでしょう。衣食住全ての分野で互いが助け合って生きていくものだと思います。意識していてもいなくても、自分の生き様がどのようなものであっても、その人の言動が他人に影響を与え、また他人から影響を受けるものです。人間社会とはそのようなものなので、とても複雑で判断に困ることも多々あるのだと思います。衣服を購入する時、誰が縫製したのだろうか

とか、米や野菜や肉や魚類を購入する時、誰が栽培したのだろうか誰が牛を育て漁網を引いたのだろうかとか、思いを巡らせることもないでしょうし、住宅にしても、たとえ自分が発注した家であっても、建築に従事している大工さんの毎日の生活ぶりにまで立ち入ることもなく、それぞれが自分自身の生活を精一杯生きているのではないのでしょうか。

定年を迎えたら、どのような生き方をするのが最適なのかを考えた時、自分は27歳の時バイクでトラックに激突する事故を起こして入院、42歳の時上顎癌の宣告を受け大手術、という経歴の持ち主なので、ずいぶん医者や家族や周囲の人たちにお世話になっています。それなら狭い範囲であっても、自分の回りの人たちに恩返しの意味で何かご奉仕をするのが良いと思いつきました。上顎癌の手術のため口の中だけを見れば障害をもっていると言っても過言ではないと思いますが、幸い健康な生活を送っておりますので、この半年か1年を休息と充電期間にして、残りの人生を人の役に立つ意義ある人生になるよう精一杯生きていきたいと考えています。

最後になりましたが、今までお世話頂いた方々から御礼申し上げます。有り難うございました。

学 校 だ よ り

中学校では、従来から、夏期合宿などを通じて、様々な生活体験や、各地域の文化・風土に接する機会を設けてきましたが、より一層の充実を図るため、今年度から校外学習の日を設定しました。今年は4月23日火に実施しました。

第1学年は、入学後間もないこともあり、生徒間の親睦も兼ね、グリーンピア三木に行き、グループに分かれて、オリエンテーリングや自然観察などを行いました(写真右)。オリエンテーリングでは、1時間足らずで回ってくるグループもあれば、2時間近くもかかるグループもありましたが、それぞれに思い出に残る1日であったようで、成功談や失敗談を楽しそうに喋りあっていました。

第2学年は、社会見学を目的として、この日を過ごしました。今回は、造幣局と読売テレビの見学を行いました。普段はなかなか見る機会のない施設の見学とあって、



興味津々の様子でした。

第3学年は、歴史探訪をテーマに掲げ、明日香村に行きました。数名ずつの班行動で、あらかじめ下調べをした上で、遺跡や寺社の見学・取材を試みました(写真左)。小学生の頃に明日香村に行ったことのある者も何人かはいましたが、中学生の目で改めて見ることで、新たな発見をしたようです。帰校後、集めた資料や写真を添えて、レポートを作成することとしました。

今年度からの企画ということで、2・3年生も4月から準備に入り、慌ただしい中に執り行われましたが、想像以上に、充実した1日を送ったようで、生徒からは早速来年の計画の声が上がっていました。



甲陽学院・創立85周年記念・会員名簿の発刊



現在、平成9年の創立80周年に引き続き、創立85周年記念事業の一つとして、5年毎に編纂・発刊をしています。甲陽学院同窓会の「会員名簿」を編纂する作業を、会員名簿編纂委員会を編成して行っています。

今回は、前回の会員名簿の編纂・発刊の反省と、会員の消息不明者、並びに住所移転・転職者の増加などから、事務局のみの調査では万全を期すことが出来ないとの判断から、外部のノウハウと調査力を活用することに致しました。

然し乍ら、外部発注となると費用の問題や秘密保持・プライバシーの保護の問題、広告募集の難しさなどの問題点が山積しています。よって、委員会にて他校の同窓会の状況把握と、各名簿作成会社との折衝などを行い、慎重な検討を重ねてまいりました。

このほど、委員会で外部の専門会社に名簿の発行を委託するのが、現在の状況では良策であるとの結論に達し、候補会社の中から一社を選び、契約条件などの細部を煮詰めてまいりました。

委託会社は、岡山の両備グループの企業、(株)リオスコで、調査・作業精度では業界トップと言われ、信頼性の高い会社であります。同社とは何回もの交渉を行い、契約条件等を詳細に煮詰めてきました。現在は、委員会・常務理事会のご了承を得まして、近く次の条件にて契約締結の運びとなっております。

会員名簿編纂の今後のスケジュールについて

- 契約締結後、可及的速やかに両者で協議・調整を行い、最終の仕様書・スケジュール表を作成し、9月下旬頃までに同窓生全員に対して、第1次調査葉書を発送します。(この時点から、予約販売の募集をさせていただきます。)
- 調査葉書の回収は2週間以内を予定し、回収先は全て同窓会・事務局とします。
- この調査葉書の回収により、前回の名簿作成時からの移動・不明状況を把握します。その上で、不明事項や消息不明者などの電話調査リストを作成し、リオス側からの電話による調査を開始させていただきます。
- 電話調査は、全てリオス側が同窓会を代行して行いますので、宜しくご協力の程をお願い申し上げます。
- 電話による確認・追跡調査が完了しましたら、最終の個人名簿リストを作成し、その正確を期す為に再度の確認調査を、全同窓生の個人個人に対して行わせて頂きます。
- 広告掲載のお願いは、本年末頃から同窓会とリオス側との共同作業で、お願いをさせていただきます。

◆同窓会との契約条件の概要。(未契約)

販売条件。(全て予約販売のみとする)

- ： 予約販売価格 - 1冊・4000円。(前回、5000円)
- ： 目標販売数 - 2800冊。(同窓生への予約販売のみ)
- ： その他 - 目標販売数を越えた場合、越えた冊数に対して、1冊につき500円を同窓会に還元する。

広告掲載の価格。(モノクロ掲載)

- ： 見返り頁・1頁 - 15万円。(前回と同じ価格)
- ： 広告頁・1頁 - 10万円。(")
- ： 広告頁・1/2頁 - 5万円。(")
- ： 広告頁・1/4頁 - 3万円。(")

広告掲載の条件。

- ： 広告の目標額 - 700万円。
- ： そ の 他 - 広告収入額の25%を同窓会に還元する。
- 目標額を越えた分の金額に対しては、50%を還元する。
- ： 同窓会への還元金 - 目標達成の如何にかかわらず別途に100万円を還元する。

名簿の無料進呈 - 同窓会に対して300冊を無料提供する。

発刊日予定日 - 平成15年10月末。

同窓会の負担金 - 同窓会として費用の支出は一切無し。

同窓会のリスク - 目標冊数・目標金額に達しなくても、同窓会のリスクはない。

その他 - 名簿作成の会員調査費用・消息不明者等の調査費用など全ての費用はリオス側の負担。電話料も含む。

(註) 名簿予約販売価格・4000円の中には、消費税・振込手数料・送料を含みます。未調整部分が若干あります。

同窓生の皆様へのお願い

- 9月の下旬頃に、同窓生の皆様に対して、第1次の葉書調査を開始します。
- お手元に調査葉書が届きましたら、直ちに所要事項をご記入のうえ、同窓会事務局までご返送を頂きたく、お願いを申し上げます。
- 個人のプライバシーにつきまして、お気遣いのことと思います。これにつきましては慎重な秘密保持の取り扱いを致します。また、リオス側との契約条項にも記載しまして、ご懸念なきよう配慮しております。
- 最近、特に同窓会の名前を使い、偽の名簿調査・購入依頼、広告募集の勧誘が増加しています。若し、不審な点がありましたら、同窓会事務局にご確認下さい。

会 務 報 告

平成13年4月から平成14年3月までの会務報告を申し上げます。

1 はじめに

本年度は、21世紀に入りまして最初の年度であります。それだけに新たな覚悟で気持ちを引き締めて、同窓会の将来の発展と充実・活性化を計る為に、諸々の活動を推進すると共に、新しい展開を計ってまいりました。同時に、日常業務の改善と合理化・経費の節減に取り組みまして、その実は一步一步ではありますが、着実に成果を挙げつつあると確信しています。

これらのことは、執行部役員のみでは達成することは出来ません。ひとえに皆様方のご理解とご協力、そして暖かい叱咤激励を頂戴しました結果であります。ここに心からの感謝と御礼を申し上げます。

2 同窓会の活動状況について

1. 会報編集委員会

13年度は、会報・第64号と第65号を発行しました。総体的にみまして我々の会報は、まだまだ発展途上の段階にあるかと思えます。色々と皆様方からのご意見・ご批判を頂戴していますが、これらを謙虚に承りまして一歩ずつ、その内容の刷新と充実を計り、堅実に皆様方の会報として成長の道を歩みたいと願っています。

委員会では、数多くの編集会議や作業部会をもち、お互いに意見を闘わせ、編集方針の検討から新企画の採用に、同窓会の情報誌として現状に満足することなく、更なる前進を続けたいと願っています。

2. 会員総会運営委員会

夏の全員参加の会員総会の企画・運営・実施につきましては、12年度から委員会の委員と共に、当番卒業学年を設け、当年度は52回卒の幹事の方をメンバーとして参加を頂き、お互いにアイディアと労力を出し合い協力をしてきました。

委員の皆様には、ご多忙のなか何回も会合を持ち、会員総会に新機軸と活性化を求め、その実現に懸命の努力を重ねて頂きました。皆様方のご努力により、会員総会には12年度に引き続き324名の多数のご参加を見まして、ご好評を得たことを有り難く存じます。

3. 会務運営委員会

この委員会は、会則・第28条 第1項の規定により、同窓会財政の安定化・健全化、並びに今後の同窓会の在り方・その運営・活動など、前向きに多岐に渡る議論を闘わせ、その方向付けと実施を目指して、臨時に設けられた委員会であります。この委員会で方向付けた諸問題を答申書に纏めて、会議の議事録を添付して会長に提出することになっています。

この委員会では、先ず早急に方策を見出し、その解決を急がなければならない同窓会財政の現状分析と将来展望を論議しました。そして、近い将来に起こりうる可能性の高い財政危機に備えて、その対策・方向付けを導きだすことが出来ました。これを新メンバーで構成しました14年度の会務運営委員会に引継ぎ、同委員会で新し

い視野・観点から見直し、近く答申書として纏めることになっています。

4. 会員名簿編纂委員会

平成14年度は、母校・創立85周年の節目に当たります。そして、5年毎の会員名簿の発刊があります。この編纂・発行を行うべく、会則により臨時の委員会を設けました。

会員名簿の編纂・発行は、言うに易く行うに大変な作業となります。担当する委員の方々に、過酷な労力と個人の貴重な時間を取らせ、その精神的な負担も相当なものがあると思います。今年の1月に正式に委員会を発足させ、新時代に即応した会員名簿の在り方や、その作業の進め方などにつき、準備会を含めて委員会で慎重な検討を何度も行ってきました。

名簿の編纂で最も大きな問題は、現在の激しい社会・経済状況の変動の中で、同窓生の転勤・転職・住居の移動による転居先不明者が激増してきました。その状況把握と確認・追跡調査が、事務局の能力・機能の限界を遙かに越えてきています。

よって、前回の会員名簿の反省と見直しを行い、他校・同窓会の現状などを調査し、ここに外部の名簿会社に委託してはとの案が浮上してきました。そこで、候補各社の内容や企画・調査力、費用・信用・機密保持の面などを比較・検討しまして、㈱リオスコーポレーションを起用することに決定しました。これの契約内容などにつきましては、別ページに掲載のとおりであります。

会員名簿の出来・不出来は、委員の努力は当然のことではありますが、同窓生の皆様方のご理解とご協力によること大であります。これからは葉書調査・電話調査などが、皆様のところに届くとおもいますので、皆様方の全面的なご協力とご理解をお願い申し上げます。

3 平成13年度の決算と14年度の予算について

1. 平成13年度の決算について

本年度の収支決算は、別掲の「平成13年度・決算書」のとおり、本年度の実質収入9,680,882円に、昨年度の繰越金7,171,919円を加え、収入総計では16,852,801円となりました。

一方、実質支出は9,913,211円で、支出予算面と比較して59.8万円の経費節減をはかりましたが、実質面の差引き収支では23.2万円と支出が上回りました。

これを全体の収支で見ますと、前年度からの繰越金がありますので6,795,192円と、収支面ではプラスとなりました。

このプラスの金額は、14年度への繰越金として計上されます。この繰越金がなければ、最近の厳しい会費収入の減少傾向から、今後は実質収入面のマイナス傾向が続き、やがて繰越金もゼロに近くなることは避けられないと予測されます。この減少傾向にある繰越金が計上出来る間に、同窓会財政の安定化・健全化への道を真剣に検討し、その解決策を早急に確立する必要があると考えます。

2. 平成14年度の予算について

14年度の予算編成につきましては、外には厳しい経済情勢と社会環境に囲まれ、内には同窓会費の納付減少

リレー随想

- 第 2 回 -

前号から始まった「リレー随想」の二番走者を、トップ走者の西松龍一先輩(1回)のご指名で、山野井 萬先輩(4回)にバトンタッチをして頂きました。山野井先輩は明治39年7月27日のお生まれで、満95歳のご高齢でありながら、頭脳明晰・矍鑠とされています。歩行も杖に頼ることなく、姿勢正しく真正面を見据えて、さっさと歩いておられます。そのお姿は、母校・甲陽の創世期の「野球部」の栄光を双肩に担われ、その後の野球部の歴史と共に歩まれた、その心に秘められた誇りと辛酸が、全身から滲み出ているように思われてなりません。過日、先輩にリレー随想の執筆をお願いしましたところ、ペンが持ちにくいので口述筆記ならとご快諾を頂き、編集委員会でお話を文章に纏めさせて頂きました。



母校・野球部に半生を捧げる

山野井 萬(4回)

■ 先ず最初に、どうしても先輩にお伺いしたいことがあります。甲陽は大正12年(1923年)夏の全国中等学校優勝野球・第9回大会で甲陽が全国優勝を成し遂げました。この栄光と伝統は今なお脈々として現在に受け継がれています。先輩は、この全国優勝に一塁手・トップ打者としてご活躍されたと聞いていますが。

□□ そうです。投手・宇井正吾、捕手・岡田貴一、一塁・山野井 萬、二塁・井上正勇、三塁・藤田謙吉、遊撃・磯野勝、右翼・田中猛、中堅・芝茂夫、左翼・青山進と、田中廣・寺本四郎のメンバーでした。チームの仲間は皆いいやつばかりで、生き残っているのは私だけとなりました。淋しい限りです。

■ 大正6年・母校創立と同時に、野球部が誕生したのです。そして、僅か7年目で全国制覇の偉業を成し遂げられました。それは激しい練習の成果でしょうか。

□□ 当時は軍国主義の時代でした。己の欲を抑えて仲間の為、母校の名誉の為にとの気概を全員がもっていました。全国優勝の勝因はといわれますと、この年の4月でした。ミズノスポーツ主催の招待試合が寝屋川であり、この時の相手校は全国的に強豪の誉れ高い松山商業でした。後に巨人軍の監督をされた藤本定義さんが投手で強打者でした。この試合は、3 - 12のワールドゲームで負けるという屈辱を味わい、仲間全員がこの口惜しさに奮起したのでしょうか。宇井投手などは、朝8時前に登校してピッチングの練習、昼休みも・放課後も暗くなるまで300球も投げていました。彼は肩が強く、内角をえぐるシュートが武器でした。この厳しい練習を全員が誰にいわれるまでもなく続けていました。

これは余談ですが、当時私は家が遠いために校内の寄宿舎での生活でした。同級生4人の同室で、早朝から夜遅くまでの練習で、部屋で疲れて横になっていたら、他の者から勉強出来ないとの苦情が出て、舎監の先生から「勉強はどうした」と、罰として水風呂に放り込まれたことを覚えています。

■ その口惜しさが自発的な猛練習となって、兵庫大会を制覇し、全国大会に駒を進められたのです。

□□ 当時の兵庫県は、全国的にも屈指の野球王国でした。5回大会で初優勝をした神戸一中を筆頭に、6回大会で優勝した関西学院、そして県立商業・姫路中・伊丹・三田などが鎬を削り競いあっていました。9回大会の兵庫予選の決勝戦は姫路中で、4 - 3で勝ち抜きました。全国大会の1回戦は宇都宮商で、8 - 2で緒戦を飾りま

した。2回戦は因縁の松山商です。この激闘を少しばかり語りたいですね。

* 藤本は全国屈指の剛速球投手、8回裏まで散発の3本のヒットしか打てずに、0 - 2でリードを許していました。9回表、最後の攻撃です。トップの私が四球で出塁し、2番・井上がヒットで走者一・二塁、3番・芝が三振、4番の岡田が2球目を見事に叩きホームラン、3 - 2と大逆転です。9回裏は、トップがヒットで出塁、次打者が送りバントで一死二塁、次打者のゆるい二塁飛球を併殺に仕留めて試合終了。鳴尾球場の外野の塀は60cmほどでしたが、それをはるかに超す逆転のスリランです。まさに9回表の劇的な逆転勝利でした。

* 勝負の流れはほんの一瞬、わずかな狂い・躊躇で変わるものです。9回の私への四球には伏線がありました。私は4回表の打席で、外の速球を見極めて出塁しました。6回表の打席では、ヒット性のファウルを相手のファインプレイで阻まれました。「藤本にとって自分は嫌な存在の筈、落ち着いて粘れば何とか」と、自分にいい聞かせて打席に立った。1・2・3球と際どい誘うような球であった。そのボールを自分は冷静に見極め得たと思った。4球目はストライク。5球目は外角の際どい速球であったが、審判の判定はボールであった。この時の藤本の何ともいえない顔は忘れられない。これで勝負の流れは変わった。これは私と藤本との微妙な心と心の真剣勝負であった、と今では懐かしく思っている。

* 3回戦は早稲田実業で6 - 1、準決勝は立命中で13 - 5、決勝戦は強豪の和歌山中と戦い、5 - 2で初出場・初優勝の栄冠を手にした。勝利の瞬間・宇井投手のホッとした顔が忘れられない。猛暑の中で5日間の連投である。疲労困憊で優勝旗すら持てない状態であった。優勝の報告が学校に電話で知らされたのであろう。学校は直ぐにオープンカーの手配をして、鳴尾球場まで迎えに来てくれた。鳴尾から甲子園まで、オープンカーに乗っての凱旋であった。この時の提灯行列も忘れられない。

■ 夏の大会で全国制覇されて、もう79年が経過したのです。夏の大会が4回の出場で、春の選抜が8回の出場ですね。野球の名門校といつてよいのです。

□□ 選手としては夏の選手権大会に1回の出場です。私の選手時代には、まだ春の選抜はなかったのです。後の夏の選手権大会の3回と、春の選抜大会の7回は、監督として出させて貰いました。私が選手として返す返すも残念なことは、母校の野球選手であった先輩を加えて甲陽クラブの名前で、優勝の年の暮れに台湾遠征を行った。その帰途でしたが、門司で風邪をこじらせて肋膜炎になりました。これの原因は、かつての予選

でデッドボールを受けて、ヨーチンを塗って我慢し放って置いたこと。また激しい練習をすれば腹が減る。これを饅頭や回転焼などを買って夕食までのつなぎにする。当時は小遣が少なく、冬の制服を買うと親をごまかして、制服代(当時は7円くらい)をお八つに費やす。だから冬でも夏服で寒さに震えていた。こんなことが重なり病気になる、1年を留年することになった。当時の学校は勉学に厳しく毎年・20人ほどが落第をしていた。野球は続けていたが、この留年した生徒は次の全国大会に出場する資格がなくなる規定ができたので、遂に出場が出来なくなりました。

- それで、4年で同志社大を受験されたのですね。
- ☐ そうです。芝と二人で同大に行きました。同大では優勝メンバーが来てくれたと喜ばれたが、野球部のメンバーが不足気味で満足に野球活動が出来なかった。京大・関学・関大などに負けてばかりでした。そのうちに21歳で兵隊検査があり、当時は在学の証明があれば、輜重輸卒に廻され2カ月で除隊が出来る。昔の歌にある「輜重輸卒が兵隊ならば、ドンボ(トンボのこと)チヨウチヨも鳥のうち」と軽くみられていた兵種である。この特権を得る為には、学校に授業料を納めなければ在学の証明書が貰えなかった。親父が昭和2年に亡くなる前であり、生活に余裕がなくなり授業料が滞納がちで、この特権を活用することが出来ずに、普通に徴兵検査を受ける事になった。そこで甲種合格となり、本来ならば山の中の篠山の聯隊に入隊のところを、本籍を磯野君の配慮で彼の本籍の大阪に移して、1年の志願兵のため240円を納めて、大阪の8聯隊に入隊した。そこで見習士官の試験がとおり、その訓練を受けたあと翌年の4月1日に除隊となった。
*その足で甲陽を訪ねると、選抜に選ばれたが監督の宇井が吐血して床についており、お前がベンチに入りたいと頼まれ、監督として指揮をとりました。しかし、自分の生活・就職のこともあり悩みました。監督時代は、辛いことも数多くありましたが、この時には亡くなられた辰馬吉男さんに、色々ご配慮を頂きお世話になりました。昭和5年、夏の甲子園に出場しましたが、雪辱に燃える松山商に敗れました。その後、就職が決まりましたが、大阪勤務となり午前中は会社で仕事、午後は営業の途中に甲陽に寄り、黙って野球のコーチをする生活がずっと続きました。この為か、給料・賞与が減額されたりもしました。

- それで昭和3年から野球部の監督を努められたのですね。大学・プロ・アマで大活躍をされた野球選手を、数多く見事に育てあげられました。
- ☐ 正式には昭和16年までやりました。その後は、野球部OBの一員として物心両面にわたり母校・野球部の育成と発展に努めました。監督時代は、数多くの名選手を東西の六大学に送りこみました。後に野球殿堂入りした別当薫(18回)はあまりにも有名ですが、慶応でユーティリティー・プレイヤーとして鳴らした川瀬進(7回)もそうです。甲陽からはプロ・アマ・大学を問わず球史に残る名選手を輩出しています。
*ここで皆さんにあまり知られていない話があります。戦前・戦後をとおして、あの巨人軍で大活躍をした剛速球投手で300勝をしたスタルヒン投手が、生徒として甲陽の野球部に一時いたことがある。関学大の野球部にいた川村徳久(8回)から、北海道遠征の時に見つけたと

の連絡があり、昭和7年に彼を両親共々に呼び、家族を今津に住ませ、竈を造りパンを焼かせる仕事を家族でやらせた。この時の彼の球速は140kmを優に越えていたと思う。しかし、ある時の県・校長会で甲陽はロシア人まで入学させて勝とうとしている、との話が出て、校長から転校させよとの命令で、可哀想であったが旭川に帰って貰った。今考えても残念である。

- 先輩が、母校の野球部に残された物心両面のご功績は、計りきれないものがあると聞いています。ここで母校の後輩に何かお言葉を頂きたいのですが。
- ☐ 野球が私の心の糧であり、心の拠り所でした。厳しい練習も、母校の為との思いが強くありました。楽をしたいとの思いを抑え、己を無にして野球に打ち込んでいたと思います。その時の時代の背景が、今の時代とは違っていたのです。私は野球を通して、人生の色々な有益なことを体得しました。私が今あるのも野球のおかげです。母校は進学校になったが、若い時に、自分の全情熱を打ち込めるものに出会って欲しい。それが野球であっても良い。その事が、自分の人生をどれほど豊に充実してくれるかを判って欲しい。時代の違いは承知している。新しい自分たちの甲陽野球を創りあげて欲しい。その逞しい気概を持って欲しい。我々の夢を実現して頂きたい。
- 有り難う御座います。一つ教えて頂きたい事があります。先輩の山野井 姓には古い歴史があると承っていますが如何ですか。
- ☐ 山野井の先祖は、大化の改新時代まで遡れると聞いている。この頃に時の権力に追われて、伊予の北条に流され、河野水軍などと交わつたらしい。後に能美島(江田島の傍)の殿様となったが関ヶ原の合戦のあと、小大名の悲しさから城を徳川に渡して野に下り、大庄屋の道を歩んだとのこと。これらの記録は、地元の古い書物にも残されている。明治30年に宮内庁から、先祖の家系について照会があった。
父は、子供の頃に博多一の萬行寺へ、小坊主として修業に行かされたが、その厳しさに耐えられず寺を出た。家にも入れて貰えず、弟のところで解の商売を手伝い、西南戦争の頃に、神戸に出て解の仕事をしていた。日清戦争で儲けたようだが、お寺で学んだ事が忘れられなかったのか、丹波の古寺を買って神戸の小野柄通に幸徳寺を建立しお寺通いをしていた。だから、私は小野柄小学校に通っていた。この時の校長は、亡くなった友國説郎(8回)元同窓会長の親父であった。それから山本通五丁目に移り、諏訪山小学校に転校した。中学は甲陽中を受験し、通学が遠いので寄宿舎生活で、朝から夜も野球漬けの毎日であった。振り返れば、甲陽時代に培った良き学友・良き野球仲間との交遊が、私の人間形成に大きく影響している。これを幸せに思い深く感謝している。
- 先輩は、昭和5年に米国ジョンズ・マンヴィルコーポレーション日本総代理店(株)千歳貿易に入社、昭和13年に(株)理研保温材工業所の設立に参画され、昭和17年に(有)大正保温工業所を設立され社長にご就任。以後、保温・保冷・防水・耐酸工事関係や造船・建築など、この道一筋を長年歩まれたのです。野球とお仕事の両立、大変なご苦労があったと思います。本日は長時間、有り難う御座いました。

会員だより



21回 桜組会

平成13年度21回卒桜組のクラス会は、秋深き11月17日(土)夕方、前年と同じ西宮市内のぐるーめ「桜子」で開催されました。

土曜日だったこともあって、他の行事と重なって止むなく欠席の一人の他は、久し振り出席の一人を加え、常連の顔が一応は揃ったものの、前年からは、死亡、病気、精密検査中、更にはハプニング的怪我と、誠に止むを得ない欠席が重なって、結局総勢は6名の参加でした。

しかし、いざ懇談となると、話ははずんで、秋の宵のひとつときを旧交をあたためながら、楽しく過ごすことが出来、意義ある同級会に終止しました。

そして二次会も例によって隣接の「ルック亭」でしっかりと行われ、翌年の再会を約し、名残を惜しみながら散会となりました。

なお今年14年度は、11月の第3(木)~(土)の三日の中から、都合のよい日を選んで開催することも内定しました。

最後に当日の出席者は、池浦、鍵本、木村、鈴木、堀の諸兄と私長村でした。(長村 記)

21回 梅組

その悲劇的な太平洋戦争勃発の翌年卒業した第21回卒業梅組の面々も今年は満の喜寿となった。二年ぶりの会合を、4月3・4の両日明石大橋の見える舞子ヴィラで開いた。

集まるもの勝部、金山、木下、建内、中尾、福地、松本の七人。

前回まで元気な顔を見せていた浅野、白石、森の諸氏が体調が万全でなく欠席したのは残念。阪口は重要な仕事があるとのことで直前にキャンセル。

入学の年に日中戦争が始まり、五年生のとき太平洋戦争、大半のものが軍務、あるいは勤労働員に駆り出された。日本近代史上未曾有の激動の時代であったが、われわれの甲陽時代は軍国主義の象徴であるゲートルを巻くこともなく、自由にのびのびと青春を謳歌した。個性ある教職員の先生のお蔭であった。

異常気象のお陰か、少し早すぎたのではないかと危惧された桜もまさに満開、一夕の歓談に花を添えた。

写真前列左より勝部、中尾、建内、松本。後列左より金山、木下、福地 (中尾 記)



22回 橘友会 「横地英雄君を偲ぶ会」

横地君とは8月の会員総会で会い、11月末住吉小学校同窓会で同席し、今年になって「甲陽同窓生の新聞広告勧誘に注意せよ」との電話が最後になりました。

2月13日、横地君は何時ものとおりに早朝山歩きに参加、夕食もビールと奥様の手料理を楽しんで6時半に就寝、9時半頃トイレに物音がしたあと、奥様が見に行かれると、壁にもたれてぐったりした様子で、救急車で病院へ向かう途中には既に心拍停止の状態だったとの事です。「葬式は一切やらない」「遺体は病理研究に献体する」との遺言どおり処置されたと聞き、3月8日奥様のご参加を得て大阪弥生会館で急遽「偲ぶ会」を開催しました。

会はしめやかながら、終始故人の思い出話が語り尽くされました。豪放磊落、飲むほどに仏教を語るかと思えば、幕末京都を紙芝居風に演じ、中学時代の悪行を披露、橘友会には奥様同伴で積極的に参加した空手6段の猛者も突然の病魔には抗し切れなかったのかと、人生の無情を悟り、お互いに年齢を考えつつ彼の分まで有意義に生きようと誓い散会しました。

写真左から、芦田雅男、赤塚寿、清水修、酒井富子、斎藤徹、横地栄、佐々木幹男、本莊秀雄、山本誠、池田貞夫、酒井新介 (酒井 記)



24回 桃組 黒桃会

久し振りに15名が甲子園の旧校舍跡地に集まった。古希も中年、何れも身体に全く異状なしが、むしろ異常な年代となった。それぞれに、近況、欠席者、故人のこと等々、互に報告し合った後、今回の主題(担任の加藤先生の敬称に因んだ)、この会の今後についての話し合いとなったが、ともかく出来得る限り続けようということとなった。

一段落したところで「運動の歌」を当時の歌詞のままに “尚武の旗の紅に 燃ゆる我等の”

締め括りに「校歌」を “謳はん ともに甲陽健児” を声高らかに合唱。楽しい一ときの後、二年後の再会を楽しみに、散会となった。(平成14年4月14日 幹事 記)



原稿は出来る限り400字詰原稿用紙1枚以内にして下さい。原則として原稿(含写真)は返却いたしませんので御了承下さい。

25回 天文会 (S20年卒 橘組)

平成14年4月20日(土)晴の午後 昨年と同じ梅田の阪急グランドホテル27階「グランド白楽天」(中華料理)にて開催致しました。

まず最初に恩師故 北村善一先生並びに会員物故者諸君の御冥福をお祈りして全員で黙祷をし、そのあと乾杯をして各自の近況報告及び欠席者の現状を知ってる者が説明をしながら約3時間、歓談、飲食を楽しみました。最後にお互いに健康に気を付けて、来年も元気で再会出来る様誓い合って校歌、応援歌を皆で声高らかに歌って、散会致しました。特筆すべきことは、過去3年間連絡のとれる会員24名に物故者が無かったことです。来年も4月に同場所にて開催を予定しております。今年は、用事の方や、病気の方が出来て、残念乍ら出席者が減りました。

猶当日の出席者は下記の7名です。

(新美 政隆、波々伯部 繁 記)



29・31回 甲東会「新緑のコンペ」

恒例の甲東会コンペが、今年も例年通り富士山南麓で、5月12日～13日に、元気な古稀の「甲陽健児」により行われました。

甲東会(29回・31回卒関東在住者主体)は、1984年に発足、毎年2月始めに新年懇親会を持っております。(場合により夏にも)ゴルフコンペは、不定期に行われてましたが、1996年より一泊で、場所・スタイルを固定して開催しています。即ち、雄大な富士山の南麓標高700メートルのザ・ナショナルCCでゴルフを楽しみ、そして、やはり富士山を真正面に見る割烹旅館「たちばな」で一泊の懇親会。懐かしの甲陽校歌「嗚呼青春の血は燃えて…」を合唱して締めくくります。(大村 記)



35回 50年ぶりの同期会

我々は新制中部部の第2回生として、昭和23年香炉園に入学しました。3クラス99名、あの広い(当時としては)非常に美しい校舎に第1回生3クラスしか在籍していなかったのが、理想に燃える若い先生方共々大歓迎を受け、唯一の上級生から可愛がられた思いがあります。

平成14年2月10日夜、電話がありました・・・
「長縄君ですか？」

「甲陽の若林です・・・」

先輩のOBならご存知の阪神タイガースの名投手、名監督であった若林忠志氏の長男若林忠雄君からの50年ぶりの電話でした。彼は中部部2年まで甲陽に学び、その後お父様の故郷であるハワイに渡り、米国籍を取得し現在はロスでDoctor of Optometry(検眼医)として活躍しているとの事。その間G.Iとして来日したこともあり、今回も製薬会社からの招待で来日したとの事です。聞けば翌11日には帰米との事。早速、東京在住の連絡取れた者10人程に声をかけ、11日宿泊先の赤坂プリンスに7人が(山崎、納谷、上村、植野、安部、吉田、長縄)集いました。

みんなそれぞれリタイア年代で寒い2月(しかも連休中の夜...)ということで急な連絡にも関わらず、よくこれだけ集まったものだと共に感動しました。

まさに50年ぶりの同期会を開催した次第でした。当時英語も上手くなく、野球でもストライクの入らない彼を肴にして2時間ほどでしたが、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。彼は前夜からこの時を思い興奮して眠れなかったそうです。聞けば甲陽の同窓会事務局に問い合わせ珍しい名前の私、長縄のアドレスを教えてくださいとの事です。この様な楽しい場を与えて下さった事務局に感謝致します。(長縄 伸也 記)



35回 29 - B会 古都に集う

FIFAワールドサッカーのオープンを週日後に控えた5月26日夕刻、ホテルグランヴィア京都“栄華の間”に参集した六十代後半の24名、その中にL.A.,USAより馳せ参じた半世紀振りの若林忠雄君(往時の阪神タイガース監督兼エース忠志氏Jr.)の顔があった。

昭和23年新制中学2期生として入学、29年卒業のB組延べ50名を吉田 謙一、真川 伊佐雄 両先生の後をうけて5年間ご担任頂いた村上 千秋先生と美幸夫人をお迎えしての21C初の「29 - B会」がスタート。塩谷幹事の挨拶後JR.OBの内田君にホテルより寄贈されたシャンパンを委員長OB野原君の音頭で乾杯、その後3テーブル入

り乱れての歓談と献酬が3時間余...

先生のリクエストで全員の近況報告が始まったが、「声が小さい、もう一步前で」とか「よっしゃ解った、もうその辺でストップ!」等 “雀百まで”?のご健在ぶりに一同感動一入の思いで仕切られていた。

翌月曜日には中村君の肝煎で10名ほどの有志がゴルフ場で酔い抜きプレイ、更に翌日には東京経由の若林君を囲んでA組、B組各4名の在京OBが旧交を暖め、彼をクタクタにしてロサンゼルスへお送りした由、山崎君より一報有り。

物故者2名、体調不良者4名、消息不明者4名 以上が甲陽卒後48年の29 - B会現状なり。(泉 盛男 記)



す。

回を重ねて、21年間42回の多きを数え、今年全員が還暦を迎えたところで、記念の一泊ゴルフ旅行を実現した。

去る5月18日、山中温泉「お花見久兵衛」に集合、宴会には中島久先生をお招きして、総勢28名が参加。旧交を温め、お互いの近況などを話題に盛り上がった。

残念ながら今回参加できなかった人も、ぜひ次回は参加してほしいものと願いつつ、再会を約して散会した。

当日の写真は、<http://members.aol.com/koyo41kai/>に掲載しています。(暮目 記)



36回 学年同窓会

恒例の第36回生同窓会を去る5月23日(木)、大阪梅田の新阪急ホテルにおいて開催いたしました。関東方面からも、石村君、酒井君、但井君3名の参加があり、総勢29名の出席のもと、賑やかで楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

毎年行っております特別講演としては、「老人介護の現状について」と題して同窓生の稲松君から、また「三田の歴史について」と題して同窓生の足立君から大変アカデミックな話があり全員真剣に耳を傾けました。その後はアットホームな雰囲気の中で各自の近況報告が始まり熱弁とタイムオーバーで予定時間を30分延長し、ようやく記念撮影に辿り着きました。

翌日は有志によるゴルフコンペをジャパンメモリアルGC(兵庫県吉川町)で開催しました。大西久光君の初参加もあり、快晴のもと9名でプレーを楽しみ、中川君の優勝をもって無事両日にわたる同窓会を終了いたしました。(竹内 記)



51回 C組クラス会

例年どおり、平成13年12月30日に、かごの屋芦屋店にてクラス会を開催しました。今回は、担任の中島博先生をはじめ、常連メンバーに数名の「やぁ久しぶりやなあ」の顔ぶれを加え、22名もの多数の出席でにぎやかに年末のひとときを過ごしました。

鍋を囲み、懐かしい高校時代のこと、卒業して30余年の出来事などを語り合い、また順に近況報告をして、あっという間に予定の2時間が過ぎました。続いて、JR芦屋駅近くで二次会を開き、夜のふけるのも忘れて閉店近くまで語り、騒ぎました。

次回はやはり12月30日に開催予定で、幹事は井上君にお願いしました。クラスメートの皆さん、是非お集まり下さい。

写真は一次会後の記念撮影で、後列左から金田、三好、浅野、清水、桑田、黒田、早崎、井上、野口、黒川、三木、長瀬、前列左から松宮、森本、木下、竹山、中島先生、神戸、岸田、西田、永田、多木(敬称略)です。(多木 記)



41回 甲陽41会

昭和35年卒業の我々は、毎年春と秋の2回、「甲陽41会」と名づけゴルフコンペを行い親睦をはかっておりま

野球部 創部 85 周年式典

野球部 OB 会では、6 月 23 日に甲子園都ホテルに於いて、創部 85 周年を記念し、式典とパーティーを開催しました。

当日は、来賓として、日本高野連の牧野直隆会長並びに兵庫県高野連の役員方、朝日新聞・毎日新聞本社の運動部長と編集委員、平田会長をはじめ同窓会関係者、辰馬本家酒造(株)の矢野常務、石川校長先生、そして歴代の野球部部長をお迎えしました。

式典とパーティーは、山野井野球部 OB 会名誉会長(4 回卒)、望月会長(27 回卒)、北川代表幹事(41 回卒)の 3 人による講演があり、全国大会優勝時の想い出や全盛時代に築いた名選手の懐かしい逸話などが披露されました。最後に、古豪復活に向け現役員へ熱いエールを送り、盛会裏にパーティーの幕を閉じました。

また、引き続き行われた奨励会では、OB 会から野球部への激励金の贈呈並びに、渥美新野球部部長と権監督(61 回卒)による、夏の県予選に向けての決意表明もあり、参加の OB 各位も、現役選手今夏の活躍を期待して閉会しました。

末筆となりましたが、同窓会事務局をはじめ、式典開催にご尽力いただきました皆様に御礼申し上げます。

(文責：61 回卒 新谷)



河野通紀先生を偲んで

我が西宮美術協会の前々代表河野先生がお亡くなりになったと聞いたのは、既にご親族による密葬が執り行われた後であった。

前年、西宮津門の病院へお見舞いに伺った時、退院後名古屋の娘婿のお宅で静養されるとお聞きしており、そこでお亡くなりになった。ひっそりと去っていかれたのは寂しい限りだが、河野先生らしい気もする。

幼少より絵心旺盛な河野通紀(こうのみちただとお読みするのが正しいそうであるが、私達親しい者はこのつうきとお呼びしていた。)先生は、昭和 6 年甲陽に入学すると美術部部長丹波政治郎(11 回)さん、岡田弘文(13 回)さんらの指導でめきめき腕を上げられた。卒業後、二科会の国枝金三氏に師事し、弱冠二十歳で「二科展」に入選、中央画壇に登場された。戦後、二科会から分離した行動美術協会に入り活躍、国際画壇にも知られる行動美術協会の重鎮と成られたのである。

河野先生の絵は、艶のある奥深い黒一色を背景に、無重力の状況での物の様子を、写真かと思う程リアルに描いておられる。宙に浮いた花瓶、フライパンの上ではねたまご等々を実にリアルに描き、今にも落ちて壊れそうなその画面は、現代人の不安の状況をズバリ表現しているように思える。

今年の 10 月に開催を予定している第 46 回西宮美術協会展(於市民ギャラリー)に遺作を展示し、ご冥福をお祈りすることになっている。

「羽田さんなあ、.....」と可愛がっていただいた私が、先生の後を継いで西宮美術協会の代表をさせていただいているのも何かの縁だと思っている。合掌

羽田英彦(38 回)

ご遺族先

〒464-0850 名古屋市千種区今池二丁目 27-4

後藤方 河野 敏子様

亡くなられた日 平成 14 年 2 月 16 日



井上 薫氏(工業)	岡田 弘氏(機械 2)	藤原 昇氏(高商 1)	山村 忠男氏(42 回)	国沢 政勝氏(38 回)	藤井 正文氏(35 回)	志田 肇氏(31 回)	梯 利光氏(31 回)	大内 昭吾氏(25 回)	横地 英雄氏(22 回)	田中 敬次郎氏(22 回)	大塚 正毅氏(21 回)	眞多 繁氏(20 回)	井上 均平氏(20 回)	百瀬 信政氏(19 回)	億野 守人氏(18 回)	木村 孝雄氏(18 回)	森長 権太氏(17 回)	前田 寿治氏(16 回)	中村 祥一氏(15 回)	河野 通紀氏(15 回)	久保 赳夫氏(14 回)	佐久間 義観氏(13 回)	矢張 英雄氏(11 回)	高橋 丈夫氏(10 回)	池永 清氏(9 回)	原 竹彦氏(8 回)	田崎 幸次氏(8 回)	川原 為次郎氏(8 回)	天野 宗明氏(8 回)	山原 熊夫氏(3 回)
01 年 11 月 21 日 逝去	01 年 11 月 13 日 逝去	02 年 1 月 9 日 逝去	01 年 9 月 1 日 逝去	01 年 12 月 23 日 逝去	02 年 6 月 8 日 逝去	02 年 5 月 15 日 逝去	02 年 4 月 4 日 逝去	02 年 7 月 1 日 逝去	02 年 2 月 13 日 逝去	02 年 2 月 23 日 逝去	02 年 1 月 8 日 逝去	01 年 8 月 28 日 逝去	02 年 4 月 4 日 逝去	01 年 12 月 22 日 逝去	01 年 8 月 21 日 逝去	00 年 11 月 5 日 逝去	98 年 10 月 5 日 逝去	02 年 3 月 5 日 逝去	01 年 8 月 28 日 逝去	02 年 2 月 16 日 逝去	01 年 6 月 13 日 逝去	01 年 11 月 1 日 逝去	01 年 10 月 1 日 逝去	01 年 11 月 4 日 逝去	00 年 10 月 3 日 逝去	01 年 12 月 18 日 逝去	01 年 3 月 2 日 逝去	01 年 12 月 27 日 逝去	02 年 4 月 24 日 逝去	

左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

訃報

(平成 14 年 7 月 5 日現在)

告 知 板

ご注意 偽会員名簿・広告募集の勧誘

- * 「甲陽学院同窓会」の名前を騙り、会員名簿を発刊するからと、相も変わらずハガキ・電話・メールなどで、現住所・電話番号・出身校・勤務先などの照会、名簿の購入依頼、広告の掲載依頼などが行われているようです。
- * 皆様には、その依頼先の名称・住所・連絡先などを、慎重にご確認をし対処して下さい。同窓会からの文書は、必ず「甲陽学院同窓会」の名称で、「同窓会・事務局の住所と電話番号」が記載されています。住所は甲陽学院・高等学校の住所と同じです。
- * 何か、不審な点がありましたら、同窓会事務局までご確認をお願いいたします。
今回は、母校・創立85周年の記念事業の一つとして、「同窓会名簿」の編集・発刊と広告の募集の作業を手掛けています。これと混同しないように、慎重なご確認をお願い申し上げます。

「甲子園都ホテル」の名称変更について - 新しい優待券の発行について -

- * 同ホテルは、2002年9月7日から「ノホテル甲子園」に生まれ変わります。
- * これに伴い、同ホテルから発行しています「宿泊」と「飲食」の優待券も、新しく装いを変えて発行されることになり、ここに同封をさせていただきます。
- * なお、旧・優待券も有効ですので、ご使用下されたくお願い申し上げます。
- * 新・優待券も、新しいホテルの名称になっていますが、お手元にお届けしました時から、ご使用して頂いて結構であります。
- * 追加の新・優待券につきましては、事務局までご連絡を頂戴すれば、直ちにお手元まで郵送させていただきます。

各卒業回の理事・評議員の皆様へ

- * 理事・評議員の皆様の中で、転勤などで関西から遠くに転居された方が目立つようになりました。更に、理事・評議員の選出をされていない、また定員不足の卒業回も見られます。
- * 同窓会を運営し活動を行う上で、理事・評議員の方々は、重要な役割を担われており、同時に同期の仲間代表でもあります。会則上、理事・評議員は、同期の方々が適宜の方法で互選され、選出されることになっています。会則で本部からの指名は出来ません。よって、理事・評議員が空白の卒業回・定員に満たない卒業回の方々は、同期の仲間と話し合いの上、更新・補充等を事務局までお知らせ下さい。

- お願ひ - 住所変更の届け

- * 会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
- * その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
- * 各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願ひを申し上げます。

「会報・甲陽だより」の原稿募集

- * 次号・第67号は、来年1月に発行を予定しています。
- * 「会員だより」・「文化部・運動部のOB会の活動」・「各支部の催し」などの投稿をお待ちしています。
- * 原稿の締切りは、11月20日とさせていただきます。

最近5年間に大学を卒業された方へ

- * 最近5年の間に大学・大学院を卒業された方々の、現住所と就職先等の連絡漏れがあり、その確認作業に事務局として難渋しています。
- * この場合、高校卒業時の親元に連絡していますが、親元住所の移転も多く、これらの追跡調査に時間と費用と手間がかかります。必ずご連絡を下さい。
- * 同期の理事・評議員、又はクラスの幹事の方は、同期の仲間に移動があれば、事務局まで必ずご一報下さい。



KOSHIEIN

FLAG REBRANDING

**甲子園都ホテルは2002年9月7日
ノホテル甲子園に生まれ変わります。**

〒663-8166 兵庫県西宮市高潮町3-30
TEL.0798-48-1111 FAX.0798-48-5111



ノホテル甲子園